

6 - 13 中部地方北西部における全磁力変化観測 (1987年5月 - 1988年4月)

Observations of Geomagnetic Total Intensity Variations in the Northwestern Chubu Region (May, 1987 - April, 1988)

京都大学 防災研究所
上宝地殻変動観測所

Kamitakara Crustal Movement Observatory
Disaster Prevention Research Institute
Kyoto University

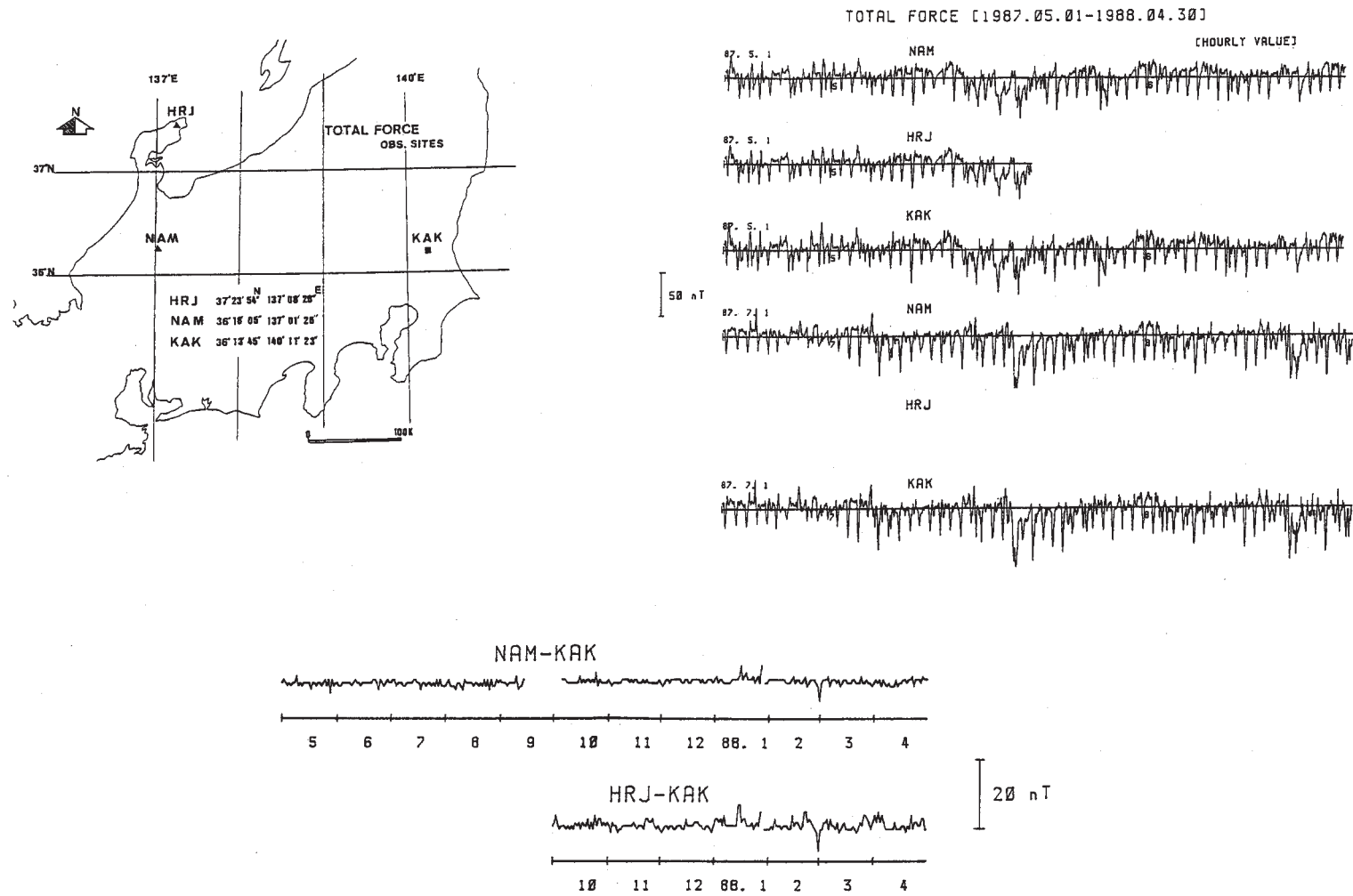
上宝地殻変動観測所では、1987年1月より能登半島宝立観測点においてプロトン磁力計による全磁力連続観測を開始した¹⁾ので、従来の跡津川断層西端の西天生観測点²⁾との比較観測が可能となった。両観測点での観測データは何れもテレメータにより観測所へ搬送され、ここで解析が行われている。

第1図左側は観測点位置を示す。第1図右上及び第2図上側は、西天生 (NAM), 宝立 (HRJ) 及び柿岡 (KAK) の3観測点における期間中の毎時平均値を表わしている。HRJ と NAM の2観測点での観測値は極めて良く対応している。期間中の平均値は、NAM 47114 nT, HRJ 47336 nT, KAK 46107 nTであった。

第2図下側に各観測点毎の日平均値の変動を示すが、この期間中どの観測点でも1nT/月程度の上昇傾向が認められる。KAKを基準とするNAMとHRJの日平均値差は第1図下側に示すように、変動が小さく ± 2 nT程度の範囲で安定している。2観測点NAMとHRJの月平均値の差は220 nTであった。

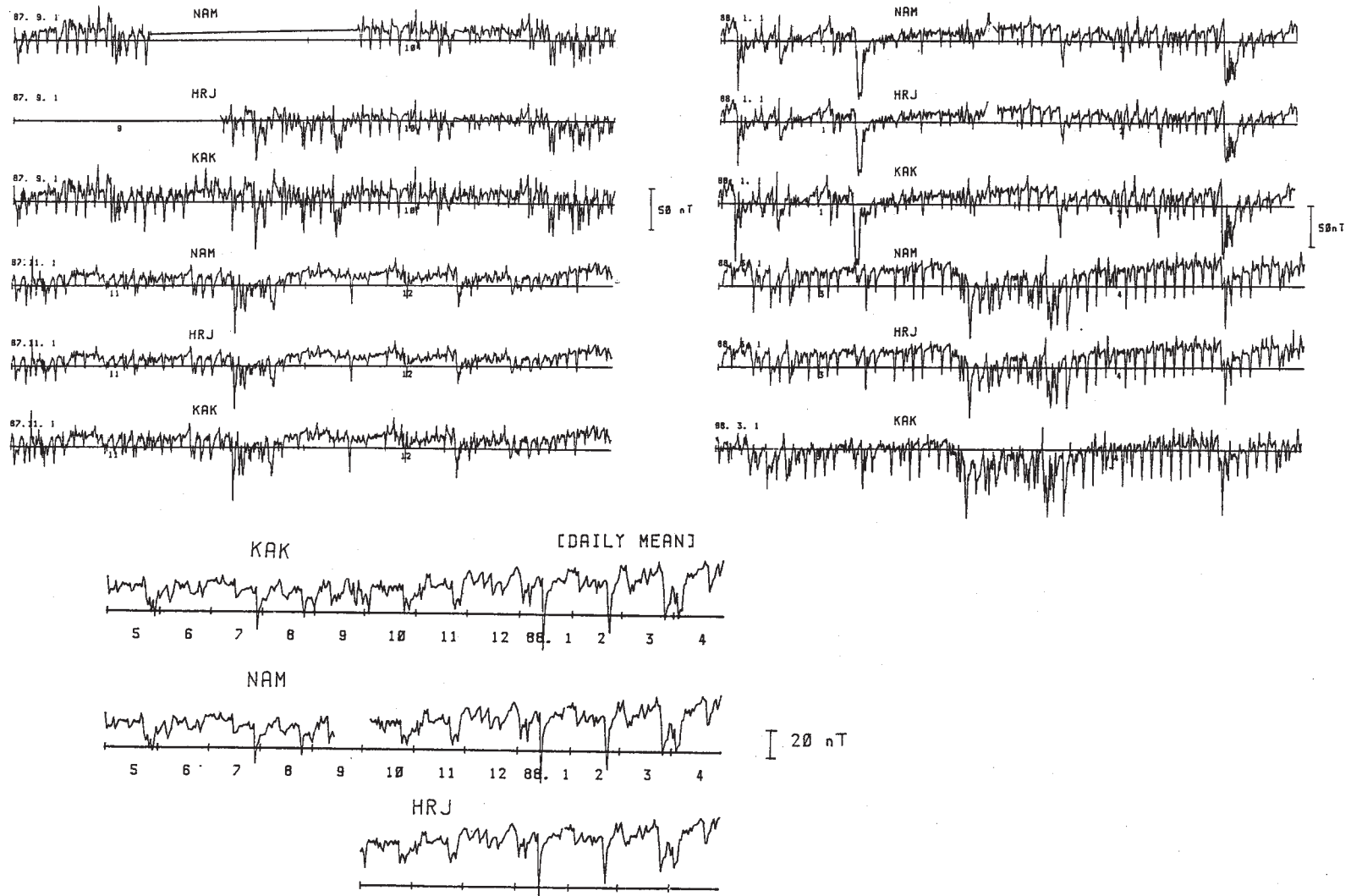
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：能登半島・宝立における全磁力変化 (1987年2月 - 4月), 連絡会報 **40** (1988), 377 - 379.
- 2) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：西天生における全磁力変化 (1985年6月 - 1986年5月), 連絡会報 **37** (1987), 356 - 357.



第1図 (左)：観測点位置 (右)：3観測点 (西天生, 宝立, 柿岡)における全磁力変化 (毎時値)
(下)：各観測点の日平均値の差

Fig. 1 Left : Location map of observation stations.
Right : Variations of geomagnetic total intensities (hourly values) at three stations, Nishi-Amo, Hohryu and Kakioka.
Bottom : Differences in the daily mean values of geomagnetic total intensities between the three stations.



第2図 (上) : 3観測点における全磁力変化 (毎時値) (第1図右の続き)
 (下) : 3観測点における全磁力変化 (日平均値)

Fig. 2 Upper : Variations of geomagnetic total intensities (hourly values) at three stations (continued).
 Lower : Daily mean values of geomagnetic total intensities at three stations.